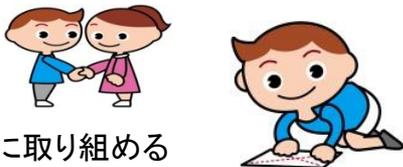


自己肯定感を高め、友だちとのよりよい関わりができる児童の育成 ～自ら考え、思いを伝え合う場面や活動を通して～

児童の実態

- ・明るく素直である
- ・親切である
- ・男女の仲が良い
- ・いろいろなことに一生懸命に取り組める



児童の課題

- ・授業中の発言が消極的
- ・自ら考え、実行する力が低い
- ・特定の友達以外とのコミュニケーションが苦手
- ・個々の活動の場面では他者に依存的



全体像

- 決まったことや繰り返しによって慣れたことには自信をもって行動できる
- ◆自ら考え、確固たる自分の考えをもって行動することや発言することが苦手
- ◆新たな人間関係をつくるために進んでコミュニケーションをとることが苦手

「目指す児童像」

- 自ら考え、自信をもって発表・発言したり活動したりできる児童【自己肯定感】
- よりよい人間関係をつくるために進んでコミュニケーションをとることができる児童【人権】

目指す児童像に迫るための手立て・方法

▲教科・領域は限定せず、全教育課程で

◇自己肯定感を高めさせることに関すること

- 「一人学び」で考えさせ、自信をもって発表させる場面設定
- 一人一人に発表させる場を意図的に設定し、周囲から賞賛される環境
授業中の発表 朝の会・帰りの会等のスピーチ 係活動
委員会活動(図書委員会の読み聞かせ 保健委員会の発表等)

◇外部講師や地域人材の活用

- 人権擁護委員による人権講話(全学年)
- 動物ふれあい教室(1年)
- お年寄りとの交流・昔遊び(1年)



◇人権(同和)教育との関わり

- 友だちとのコミュニケーション能力を高める活動
学び合い(教科) KJ法(国語、学活) PA(学活) 外国語活動
いいところ探し(学活) リレースピーチ(朝・帰りの会)
学校探検(生活科) 群読・劇(国語) なかよし交流会
「なかよし月間」などの縦割り班活動 JRC活動 道德教育
学級活動 みんなで歌おう(朝の会) 集会・ボランティア委員会
飼育委員会 栽培委員会 ふわふわ言葉・ちくちく言葉
「かがやきルール」を守ろう 校長講話の「和」